

3月19日（土）、立命館大学朱雀キャンパスにて、第28回京都教育懇話会〈日本の未来と人づくり〉『ネット時代のあるべき姿を考える』を開催した。今回は佛教大学教授で教育学部長の原清治氏を講師にお招きした。前半は原氏の白熱授業が行われ、後半は司会者の高校生や参加者と、原氏との質疑応答が行われた。

最近の学校の状況で気になることとして、スクールカーストをあげられた。

スクールカーストとは、クラス内に 暗黙のうちに存在する上位、中位、下位グループに階層分けされることである。階級は人気度や、部活、コミュニケーション能力の高さなどで決められる。このカーストの下位グループの者がいじめられやいじめの標的とされる。

そして、今、このいじめがネットの中でも起こり始めている。今では、スマートフォンに近い機能を持っている 3DS を使ったネットいじめやネットトラブルが小学生間でも起こっている。トラブルの例としては、友人による『さらし』や、個人情報の漏えいなどである。

特に一番ネットで怖いものは、連絡手段として多くの高校生が利用している『LINE』だということ。メール感覚でグループ会話が可能である『LINE』だが、同時に、相手がメッセージを確認したか、送信者が確認できる『既読』機能がある。これによってグループ内でわざと返信しないといういじめにも発展する。また、児童ポルノなどの悪質な情報が出回るケースもある。このようなトラブルが起こらないためにも、ケータイ使用のルールを作ったり、システムで守る『フィルタリング』をするべきである。

ネットは便利だが、相手と直接話す、それ以上大切なことは無いと思った。